

平成 26 年度山口大学
「山口国際協力の里ネットワーク」
活動報告

平成 27 年 3 月

1. 国際協力技術研修事業

① バングラデシュ研修員受入（5月）

2014年5月26日～30日

- ・ JICA の研修員受入事業の一環
- ・ 研修員 40 名を受入れ、経済学部と連携し、県内自治体訪問等を通し、地方自治についての研修を実施した。（本研修はバングラデシュの地方自治体首長が主体）。

<参考：別添①ホームページ原稿>

② バングラデシュ研修員受入（8月）

2014年8月5日～13日

- ・ JICA の研修員受入事業の一環
- ・ 研修員 14 名を受入れ、経済学部と連携し、県内自治体訪問等を通し、地方自治についての研修を実施した。（本研修はバングラデシュの行政官が主体）。

<参考：別添②ホームページ原稿>

③ スリランカ研修員受入

2014年11月4日～27日

- ・ 農水省の遺伝資源の機能解析等に係るスリランカ能力開発の一環
- ・ 研修員 2 名を受入れ、農学部と連携し、学内での農学に関する基礎的な講義と実験、国内の種苗会社訪問などの研修を実施した。

<参考：別添③ホームページ原稿>

④ スリランカへ専門家を派遣（専門家派遣）

2015年3月14日～18日

- ・ 農水省の遺伝資源の機能解析等に係るスリランカ能力開発の一環
- ・ 農学部執行教授をはじめ、スリランカへ3名の専門家を派遣する。

2. 国際協力事業

① カンボジア北西部チョンカル郡内小学校及び中等学校における学校運動会の定着事業（カンボジアプロジェクト）

教育学部海野教授の JICA 草の根技術協力事業の申請を支援した。2014 年度第一回目の公募に申請したが、結果は不採択であった。

② ベトナム在来ブタ資源の遺伝子バンクの設立と多様性維持が可能な持続的生産システムの構築事業（ベトナムプロジェクト）

共同獣医学部音井教授が申請した SATREPS 事業のうち、国際協力に関わる事項の

支援をし、採択に至った。

<参考：別添④ホームページ原稿>

③シートパイプ・システム適用による農業生産向上を目指す案件化調査
(ミャンマープロジェクト)

協和建設工業株式会社と工学部松田教授が連携して申請した ODA 案件化調査を支援したが、結果は不採択であった。

3. 研究調査事業

①情報収集活動

各事業に必要な情報収集のため、JICA の国内外の関係機関、外務省、農水省との情報交換を行った。

②国際協力活動推進プラットフォーム事業（プラットフォーム事業）

学内の教員の国際的な取組の支援を行った。

<参考：別添⑤ホームページ原稿>

③国外の大学との交流（イエジン農業大学訪問）

イエジン農業大学と新たに大学間協定（2015年1月12日）を締結した。

<参考：別添⑥ホームページ原稿>

4. 広報関連事業

①ホームページ

学内の国際協力に関する活動の情報収集を行い、毎月一回のペースで、活動を報告及び紹介する記事を掲載した。

<国際協力の里ホームページ URL : <http://www.iassc.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/village/>>

②リーフレット

国際協力の里のリーフレットを作成し、シンポジウムや企業訪問の際に配布し、「里」の周知に努めた。

③イベント参加

山口県しんきん合同ビジネスフェア（2014年5月14日）及びやまぐちものづくり & ビジネスフェア 2014（2014年11月3日～4日）に出展、「里」の PR を行った。

<参考：別添⑦ホームページ原稿>

<参考：別添⑧ホームページ原稿>

④青年海外協力隊説明会

学生の青年海外協力隊への関心醸成のため、青年海外協力隊説明会（2014年4月24日）を、青年海外協力隊OB、山田涼太氏をお招きし、国際協力機構(JICA)と山口大学の共催で実施した。

<参考：別添⑨ホームページ原稿>

⑤山口大学「国際協力の里」特別講演会（特別講演会）

山口大学「国際協力の里」特別講演会（2015年1月20日）を公益財団法人交流協会理事長、今井正氏をお招きし、今後山口大学との関係が深くなると予想される台湾の魅力を発信するため、実施した。

<参考：別添⑩ホームページ原稿>

5. 地域連携関連事業

①第2回中小企業海外展開支援に関する説明会（中小企業セミナー）

第2回中小企業海外展開支援に関する説明会（2014年12月16日）を株式会社西京銀行及びジェトロ山口と共催で実施した。本説明会はより、具体的な情報を企業に提供するため、テーマをベトナムでのビジネス展開とし、開催した。講師はジェトロからの派遣と佐田知的財産センター長とし、それぞれの分野から講演を行っていたが、ジェトロからの講師に関しては諸事情により講演不能となったため、急きょ、大迫アドバイザー及び富本教授にお願いすることとなった。

<参考：別添⑪ホームページ原稿>

②その他

産学公連携センター及び山口TLOとの連携の深化、2015年2月までに19回、工学部にて毎週開催されているコーディネーター会議への参加及び県庁初め、企業支援機関主催のセミナーに参加する等、情報収集及び交換に努めた。

6. 留学生交流拠点整備事業

①市民参加型シンポジウム「山口の食を世界へ！」

市民参加型シンポジウム「山口の食を世界へ！」（2014年6月22日）を基調講演に日本貿易振興機構山口貿易情報センター所長、森則和氏をお招きし、実施した。また、本シンポジウムは世界的に注目の集まる日本の食文化をさらに世界に向け発信するため、基調講演の後にパネルディスカッションを実施し、実際に食品関連で海外展開の事例を通し、意見交換を行った。シンポジウム終了後にはパネルディスカッションに参加した企業と留学生参加の交流の場を設けた。

<参考：別添市民参加型シンポジウム「山口の食を世界へ！」チラシ>

②第7回留学生就職支援フェスタ・イン・山口

第7回留学生就職支援フェスタ・イン・山口（2014年7月19日）を実施した。本フェスタは、留学生への国内企業の紹介及び企業との個別面談を通し、留学生の就活力の向上を目的に実施されたものであり、各企業によるプレゼンテーションと留学生との個別面談を実施した。

<参考：別添第7回留学生就職支援フェスタ・イン・山口チラシ>

③留学生のための日本企業文化理解講座

留学生のための日本企業文化理解講座を2014年9月30日～2015年2月3日にかけて実施した。本講座は日本語授業「ビジネス日本語」と連携し、現役企業人による講義を通し、参加企業とのネットワークの強化と業種別の企業文化、日本企業に共通する企業文化を留学生に理解してもらう目的で実施した。

<参考：別添留学生のための日本企業文化理解講座チラシ>

④第3回留学生と企業経営者との交流会「DISCOVER YAMAGUCHI in 周南」

第3回留学生と企業経営者との交流会「DISCOVER YAMAGUCHI in 周南」を2014年11月8日に実施した。本交流会は留学生とグローバル化を考える県内企業の相互理解を図る目的で実施されたもので、元留学生による就職活動の講演等の留学生向けプレゼンテーション、留学生活用方法を紹介する企業向けプレゼンテーション等の講演を行った。その後、参加した留学生及び企業の相互理解をさらに深めるため、企業によるプレゼンテーション及び企業ブース展示会が行われた。

⑤ヤマグチ・ベンチャー・フォーラムとの連携

ヤマグチ・ベンチャー・フォーラム12月定例会（2014年12月2日）に、山口銀行と連携し、「アジアを中心とした企業の進出支援及び留学生・研修生の受入」という議題にて、本学留学生センター長、福屋利信教授と本学所属の留学生がパネリストとして出席し、パネルディスカッションを実施した。本パネルディスカッションにおいては、実際に日本の企業に就職している元留学生や日本国内での就職を希望する留学生、留学生の採用を検討している企業関係者による活発な意見交換が行われた。

<参考：ヤマグチ・ベンチャー・フォーラム案内>

Bangladeshより地方都市行政能力強化プロジェクトで40名の研修員が来学

5月26日(月)、国際協力機構(JICA)が実施する地方都市行政能力強化プロジェクト研修で、Bangladeshのポルショバ(地方都市)の市長や行政官、総勢40名が来学しました。

地方都市行政能力強化プロジェクトは、行政サービスや開発事業運営に係る実施体制が十分に構築されていないBangladeshの地方自治体に共通する課題の解決のために、Bangladesh全国に319あるポルショバの市長や行政官を対象に行われ、ポルショバの行政能力強化策の実施とそのための実施体制・制度の整備、関係者の能力強化を目指すものです。山口大学は、2013年9月に、国別研修により、Bangladeshから5名の研修員を受け入れましたが、その際、参加者の1人から、Bangladesh側の経費負担でポルショバ市長を対象に研修を実施してほしいとの要望があり、本研修の実施に至りました。

当日は、開講式、オリエンテーションに続いて、研修員は本学の三浦副学長(国際・地域連携担当)との懇談を行いました。三浦副学長が、山口大学や山口県の紹介と併せて、今後Bangladeshとの交流を発展させていきたいと挨拶したのに対し、研修員を代表して、シャムス氏が、「皆様のご協力に感謝する。いつかBangladeshがこんな素晴らしい国になったという姿を皆さんにお見せしたい。」と感謝の言葉を述べました。

本研修では、ポルショバ市長間で共通の行政ビジョンについての集中的に検討・協議される予定です。5月27日以降は、山口県庁、山口市、宇部市への訪問や山口市リサイクル・センター、有限会社サンエイ興業、宇部興産株式会社の視察など、5月30日の閉講式まで、4日間のスケジュールで研修が実施されます。

一連の研修がBangladeshの発展に寄与することを願うとともに、今後、山口大学とBangladeshの関係深化にも努めていきたいと考えています。





バングラデシュから 14 名の研修員が来学



8月5日（火）、国際協力機構（JICA）の国別研修で、バングラデシュから行政官 14 名が来学しました。

バングラデシュは、中央政府に比べ、地方自治体の基盤が脆弱であり、さまざまな改革プログラムを推進するために、国の公務員制度や地方自治・地方分権制度に関する、明確かつ共通したビジョンを持つ行政官の育成が求められています。JICA の国別研修は、昨年 9 月にも本学において実施し、研修員らは、地方行政に関する講義のみならず、山口県庁、山口、宇部の各市役所等を訪問し、地方行政の現場の声を聞き、本国での取り組みに生かす情報・知識を習得して成果をあげており、今回の研修でも実地研修がプログラムに組み込まれています。本学は、今年 5 月にも、バングラデシュのボルショバ（地方都市）の市長や行政官を受け入れ、研修を実施しており、バングラデシュとの交流が活発化しています。

当日は、開講式が行われ、本学からは、岡学長、三浦副学長（国際・地域連携担当）、成富経済学部部長らが出席しました。開講式では、まず、岡学長から、「山口大学を代表して皆さんを歓迎いたします」と挨拶があり、研修員を代表して、カビル氏が、「日本はとてもきれいな国で感動した」と来日後の感想を述べました。そして、参加者の紹介の後、全員で記念撮影を行いました。本学での研修は 8 月 8 日まで、4 日間の予定で実施されます。



Bangladeshからの研修員受入れは、今回で3回目となり、研修内容もより充実してきています。本学は今後も Bangladeshからの研修員を継続して受入れ、 Bangladeshの国および地方の発展に寄与していきたいと考えています。

スリランカから2名の研修員が来学

11月4日（火）から11月28日（金）にかけて、農水林水産省の補助事業である、「平成26年度遺伝資源の機能解析等に係る途上国能力開発事業」により、スリランカから2名の研修員が来学しました。

1983年に生物多様性条約が発効して以来、途上国を中心に土地固有の在来生物や種子をはじめとする遺伝資源を研究や製品開発の目的で国外に出すことを規制する動きが進んでいます。

本研修は、途上国、特にスリランカの農林水産分野における遺伝資源の探索・機能解析等に関する能力開発を支援し、同国と遺伝資源の取得及び利用の促進に関する協力関係を築くことで、将来スリランカとの遺伝資源の取引を円滑にすることを目的に、農水林水産省から再委託を受け、実施されました。

研修には、大学での講義に加え、実験、企業訪問、シンポジウムへの参加等、実践的な内容が多く盛り込まれ、研修員は機材の使用法から実験の手法、日本の種苗会社の製品開発技術、開発理念に至るまで、多岐にわたり学びました。日本国内の種苗関連企業が参加したシンポジウムでは、研修員がスリランカの農業の現状を紹介し、スリランカと日本が、今後農業分野でどのような協力・連携関係を構築できるかについて活発な意見が交わされました。



最終日には、受入教員、学生及び留学生も参加して懇親会を開き、交流を深めました。

本学は、今後とも地域の総合大学として、国、分野を問わず、世界各国から研修員を受

入れ、世界の発展に寄与していきたいと考えています。



共同獣医学部音井教授のプロジェクトが SATREPS 採択

本学共同獣医学部の音井威重教授のプロジェクトが、平成26年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）に採択されました。（研究代表者：独立行政法人農業生物資源研究所 菊池和宏上級研究員 研究分野：生物資源）。

SATREPS は、独立行政法人科学技術振興機構（JST）と独立行政法人国際協力機構（JICA）が共同で実施している、日本と開発途上国の研究者が共同で行う研究プログラムで、公募・審査を経て採択された研究に対し、年間1億円程度の予算規模で資金援助が行われます。環境問題、感染症などの地球規模の課題は、ひとつの国や地域にとどまらず、国際社会に共通する課題であり、なかでも、途上国は特にこれらの問題の影響を受けやすく、各国のニーズに基づく研究開発と実用化が必要とされており、日本の優れた科学技術への期待が高まっています。

本プロジェクトでは、ベトナムの希少品種であるミニブタの絶滅を阻止すべく、現地の農業農村開発省畜産研究所、ベトナム国立農業大学、ベトナム科学技術アカデミーと、研究代表者である菊池上級研究員のほか、山口大学を含む4機関の研究者が共同で研究に取り組んでいます。具体的には、現地でのジーンバンクシステムの構築を主な目的として、安全な移植用代替臓器として期待されるブタ内在性レトロウイルスに感染していないミニブタを発掘し、ベトナムから他国への医用動物販売の可能性を探り、最終的には日本にミニブタを持ち込むことを目指しています。これにより、生物多様性の維持、レトロウイルスフリーのブタの系統保存および再生、地域ブランド化を目指したブタ生産システムの確立が期待されます。

音井教授は、長年、ベトナムの希少種であるミニブタの品種維持に取り組んでおり、これまで本学は、教員の国際協力活動のサポート予算である、国際戦略活動プラットフォーム経費から拠出して、研究を支援してきました。

本研究で、音井教授は、自身の知見を生かし、現地の機関と共同でブタの飼育に携わるとともに、技術指導も行い、現地のニーズに基づく人材育成、また、ミニブタの販路確立に貢献します。

山口大学では、国際協力の里構想を掲げ、さまざまな国際協力活動に携わる人々が集う「場」を設けており、プラットフォーム経費を通じて、国際協力の里につながる活動を支援しています。音井教授のプロジェクトが、今回このような形で発展したことは、ひとつ

の大きな成果であり、今後も、音井教授のプロジェクトが、途上国のみならず、地球規模で持続的発展に貢献することを願っています。

国際協力活動推進プラットフォーム 2013 年度活動報告会を開催

7月14日(月), 国際協力活動推進プラットフォームの2013年度の活動報告会を開催し, 昨年度活動を行った教員が, 成果発表を行いました。

国際協力活動推進プラットフォームは, 山口大学における国際協力活動の推進を目的に, 2007年に設立された制度で, 国際協力に関心のある教員が, 専門分野を生かした国際協力活動を実施するための支援を行っています。

報告会では, 初めに三浦副学長(国際・地域連携担当)から「今回の報告を, 今後の山口大学の国際戦略を考える上での参考にさせていただきたい。」との挨拶があり, 続いて, それぞれの教員が, 活動報告を行いました。

報告の中で, 各教員は, 途上国のニーズや環境に応じて実施した活動の取り組みや得られた成果について述べ, 国際協力活動への意欲と熱意を込めて, 今後の展望を語りました。また, プロジェクトに協力した学生が, 現地でしかできない体験を通して, 途上国の現状や, 途上国に対する継続的な支援の必要性等, さまざまなことを学び, 国際協力について考えるまでに成長した姿についても, 報告がありました。

報告後は, 質疑応答, 意見交換が行われ, 最後に, 三浦副学長が「プラットフォームの活動が外部資金の獲得にもつながっており, 頼もしく思う。来年度も良い報告が聞けるよう期待している。」と述べました。

山口大学は, 今後もプラットフォームの活動を地域の活動と結びつけながら, 国際協力の里構想を推進していきたいと考えています。

活動報告の概要は以下のとおりです。

発表者	発表テーマ	発表概要
教育学部 和泉 研二 教授	カンボジア王国における国際教育協力事業	理科教育支援のための、「科学の祭典 in カンボジア」の実施について
教育学部 海野 勇三 教授	カンボジア北部地域のクラスターにおける現職教員研修（体育）への支援	カンボジアにおける体育教育を提 供するための運動会プロジェクト について
理工学研究科 朝位 孝二 准教授	ラオス国ビエンチャンにおけるメ コン川洪水氾濫実績調査と対策に 関する研究	メコン川中流域における防災教育 の提供及び人材育成について
共同獣医学部 音井 威重 教授	インドシナ地域における拠点・支援 大学の教育資源と相互交流	ベトナム拠点大学等の教員養成の ための共同研究について
農学部 執行 正義 教授	ミャンマーにおける種苗採種事業 化による農業の振興計画案件化調 査	ミャンマーにおける遺伝資源のア クセス円滑化について



イエジン農業大学と大学等間学術交流協定を締結

1月12日（月）、富本副学長補佐、農学部執行教授、沼田コーディネーターが、ミャンマーのイエジン農業大学を訪問し、同大学との大学間学術交流協定調印式に臨みました。この協定締結により、本学は、同大学と協定を締結した日本で4番目の大学となります。



調印式では、冒頭、それぞれの大学の紹介が行われました。イエジン農業大学は、建学90年の歴史を持つミャンマー唯一の農業大学です。ネピドー（首都）に本部を置き、ヤンゴン（旧首都）近郊にもキャンパス及び試験場を持ち、同国の農業分野の発展の中心的役割を担うとともに、農業分野の先進的な研究を行っています。また、日本との関係も深く、同大学には、日本で学んだ経験を持つ教員も多く在籍しています。

こうした背景から、日本の農学部を持つ山口大学との協定締結には、同大学も大きな期待を寄せており、調印式での意見交換では、今後農業分野を中心としたさまざまな分野で、協力関係を構築していくことが確認されました。また、同大学では、日本のODAによる施設の建設や人材交流等さまざまなプロジェクトが進行中で、これらの事業における両大学の連携も模索していくこととなりました。

山口大学は、協定締結により、同大学と本格的な交流を開始するとともに、ODA事業へ積極的に協力するため、日本の行政機関とも連携しながら、同大学とともに、ミャンマーの発展に寄与していきます。



山口県しんきん合同ビジネスフェアで国際協力の里を紹介

5月14日(水)、第7回山口県しんきん合同ビジネスフェア2014が、海峡メッセ下関で開催され、本学は、大学研究推進機構がブースを設け、国際・地域連携課からは、昨年度に引き続き国際協力の里ネットワークの取組みを紹介しました。

フェアには、県内の企業のみならず、海外の団体も含めた185ものブースが出展されており、国際協力の里の活動を紹介する絶好の機会となりました。

当日は、国際協力の里の事例として、外務省及びJICAのODAを活用した中小企業等の海外展開支援メニューを利用して、本学と多機能フィルター株式会社が共同開発した多機能フィルターシート(マルタクシート)をインドネシアで展開した実績や、協和建設工業株式会社とともにミャンマーで展開しようとしている灌漑事業の、JICAの案件化調査事業申請へ向けた取組みなどを主に紹介しました。案件化調査とは、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を途上国の開発に活用する可能性を検討することを目的とするもので、委託を受けた企業は海外での事業に関する情報収集や、相手国政府機関との関係構築を行うことができます。また、途上国の政府事業やODA事業に自社の製品技術が活用されることで、海外展開を推進することも可能です。

本学のブースには、出展ブース関連の方以外にも多くの公共機関の方が訪れ、国際協力の里のネットワークをさらに強固なものにするきっかけを作ることができました。

今後も、国際協力の里を推進していくために、積極的に情報発信を行っていきます。



やまぐちものづくり&ビジネスフェア 2014 で国際協力の里を紹介

11月3日及び4日の2日間、やまぐちものづくり&ビジネスフェア2014が、維新百年記念公園スポーツ文化センターで開催され、本学からは、大学研究推進機構がブースを設け、国際・地域連携課が、国際協力の里ネットワークの取組みを紹介しました。

今回のフェアは、昨年まで別々に開催されていた「ものづくりフェスタ」と「やまぐち総合ビジネスメッセ」を統合した総合産業イベントで、167もの企業・団体が、自社の製品及びサービスの販路拡大や利用促進を図るために、ブースを出展しました。また、「ものづくりフェスタ」が統合されたことにより、企業関係者だけでなく一般の方も多く来場し、国際協力の里を紹介する良い機会となりました。

本学のブースを訪問した企業・団体からは、在学中の留学生と交流したい、海外展開をするにあたって山口大学との連携を検討したい、といった相談が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

今後も、地域の企業との連携強化に努め、国際協力の里を推進していきます。



国際協力機構（JICA）青年海外協力隊説明会を開催

4月24日（木），吉田キャンパスにて，国際協力機構（JICA）と山口大学の共催による青年海外協力隊説明会を開催しました。山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として，人間力とバイタリティーにあふれる，世界に羽ばたく人材の育成を目指しています。本学の学生が，日本国内のみならず海外にも目を向け，活躍の場を見出してくれることを期待して，本説明会を開催しました。

説明会では，初めに，JICA 国際協力推進員の小野万理さんから青年海外協力隊の制度についての説明があり，続いて，2012年1月からアフリカ南部のザンビア共和国（職種：サッカー）へ派遣され，2年間の派遣期間を終えて帰国した山陽小野田市出身の協力隊OBの山田涼太さんが，自身の体験について報告を行いました。山田さんは，ザンビアの特徴や日本との違い，現地での活動について VTR を見せながらユーモアたっぷりに紹介し，その中で，特に感じたこととして「ネガティブな言葉で脅すのではなく，ポジティブな言葉でその気にさせることが大事」，「密なコミュニケーションが結果を生む」と強調し，経験者ならではの説得力ある言葉に参加者は大いに頷かされました。

説明会には，青年海外協力隊の制度やアフリカのサッカー事情を学ぼうと，学内外から約20人が参加し，皆，山田さんの話に熱心に聞き入り，質疑応答では，コミュニケーションの問題，現地の食事，現地における他の日本人との関わりについてなど，多くの質問が挙がり，終了後も熱心に質問する参加者もいました。

参加者は，山田さんの貴重な体験談に触れて，まだ見ぬ国々やそこで活動する自分の姿に思いを馳せている様子でした。この説明会を通じて，より多くの本学の学生が，海外へと活躍の場を広げてくれることを期待します。



山口大学国際協力の里特別講演会～魅力あふれる台湾—台湾ってどんなところ？—を開催



1月20日（火）、大学会館大ホールで、公益財団法人交流協会理事長の今井正氏を講師に迎え、特別講演会「魅力あふれる台湾—台湾ってどんなところ？—」を開催し、学内外から約90人が参加しました。

山口大学は、本年4月に新しく国際総合科学部を開設し、国際的に活躍する人材の育成と地域の活性化を目指しており、当学部の学生には、1年間の交換留学を義務づけるなど、現在、大学をあげて「学生の国際化」に取り組んでいます。これに伴い、特に台湾の協定校との交流が益々盛んになり、関係が深まることから、主に学生にさまざまな観点から台湾を知ってもらおうと、本講演会を開催したものです。

講演会では、三浦副学長（国際・地域連携担当）の挨拶に続いて、今井氏が講演を行い、台湾の魅力を紹介しました。



山口県出身の今井氏は、山口の思い出について語った後、自身の海外経験を通じて感じた、異文化理解、コミュニケーションの重要性について述べ、「異文化に接することで、

人間の奥行きが生まれる。海外の人たちは、自分とはまったく逆の視点で物事を見ており、逆転の発想が可能になる」と強調しました。

続いて今井氏は、本学が、隣国である台湾を異文化交流強化の最初の相手国とすることに理解を示したうえで、台湾の歴史、政治、経済についての説明を行いました。氏は、日・中・台の関係、また、それに伴う台湾のアイデンティティの確立の難しさについて述べ、日本と台湾は、心と心がつながった重要なパートナーであり、政府ではなく、実務担当者が交流の担い手であると熱く語りました。



講演後の質疑応答でも、台湾の親日感情について、さまざまな要素が入り組んだうえでの結果であり、日本から恩恵を受けた結果だという傲慢な考えを持ってはならないと強調しました。

山口大学は、今後もこのような講演会を通じ、学生のみならず教職員も、海外の国々への理解を深め、国際化に対する意識を高めて、全学でグローバル化を推進していきたいと考えています。

12月16日（火）、山口大学は、株式会社西京銀行、ジェトロ山口及び有限会社山口ティール・エル・オーと共催で、第2回中小企業海外展開支援に関する説明会を新山口ターミナルホテルで開催しました。この説明会は、本学が推進している山口大学「やまぐち国際協力の里（以下「里」）」の事業の一環として昨年度に続き行われたもので、海外展開を検討している中小企業を発掘し、その相談に応じるなどの支援を行うことを目的としています。

今年度の説明会は、対象国をベトナムに絞り、同国の経済事情等テーマに実施しました。企業・団体から約40名もの参加があり、地域産業界の海外展開、特にベトナムでの展開への関心の高さが感じられました。

当日は、一部講演内容の変更があり、佐田山口大学知的財産センター長と大迫国際アドバイザーによる講演が行われました。佐田センター長は、ベトナムをはじめとした東南アジアにおける知的財産権の現状に加えて、実際に販売されている商品を用いながら、特許制度の仕組みを紹介しました。大迫国際アドバイザーは、自身のベトナムを含むASEAN諸国に対する国際協力事業における経験で培った、海外展開のノウハウについて講演し、「海外展開の成功の秘訣は、文化なども含めて、その国すべてを好きになることです。」と述べました。出席者は熱心にメモを取りながら、講演に聞き入っていました。

講演後、質疑応答が行われ、最後に三浦副学長（国際・地域連携担当）が、今後も、企業の皆さまには、里のネットワークや大学のシーズを大いに活用していただきたいと挨拶し、説明会を締めくくりました。説明会終了後は、情報交換会が開催され、講演者への個別相談や参加した企業関係者同士の活発な意見交換が行われました。

山口大学はこれからも里の活動を推進し、地域の企業の海外展開を支援していきます。